



特集

輪・和・話  
知恵の 人の マチの

# 当別町の少子化対策は？

当別町で生まれる赤ちゃんが激減し、近年では年間 50 人台という数まで減少しています。このような状況が続くと小中学校の統合をはじめ、町内の経済活動の停滞など、これまで経験しなかった問題が現実となってくるのです。この危機的な状況を回避する方策とは。

少子化の現象は全国的な課題となっています。その要因として結婚観や価値観など個人の意識変化やライフスタイルの多様化により、結婚しない人の割合が増えたり、晩婚化が進み出産を控える傾向も、少子化の要因となっています。

当別町においても、これら未婚化・晩婚化の影響を受けています。若い人たちが大学進学や就職、結婚等を機に町外へ転出、地価の下落による都市部への人口

回帰など、複雑な要因が重なり合い、20 代後半から 30 代 40 代のいわゆる子育て世代の人口が著しく少なくなっています。

このような状況の中、当別町にある豊かな自然環境や地域のコミュニケーションなど、都会では味わうことができない地域特性を活かした少子化対策を実施するため、『当別町少子化対策戦略プラン』を策定し、全町一丸となってこの課題に取り組みます。

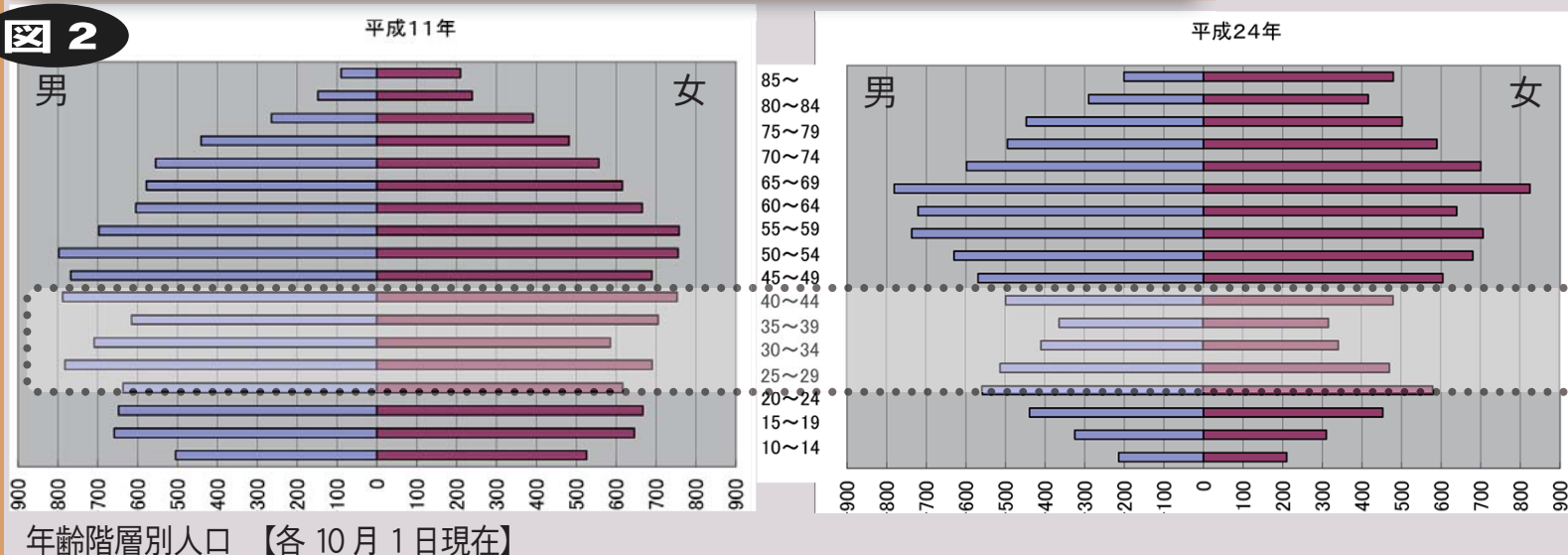
図 1



当別町の人口は、平成 11 年に 20,875 人のピークに達しましたが、その後、長引く経済不況等の情勢変化などで減少に転じ、この 10 年間で 2,000 人以上の減少となっています。(図 1)

特に子育てを担う 25 歳～44 歳人口を見ると(図 2)、平成 11 年の 5,615 人から

図 2



平成 24 年は 3,582 人へとその減少傾向が顕著となり、この世代の減少に伴って、子どもの数も減っていることがわかります。

町の将来を  
みんなで考える

# 当別町少子化対策戦略プランを策定

2013.3



## 戦略プランその考え方と概要

### 少子化を防ぐために

戦略プランでは、少子化・人口減少に対する効果的な対策について、次の考え方を基本としてまとめます。

- ① 都会にはないやさしさ、つながりのあることなど、本町の持つ優位な資産を活用する。
- ② 子育て関連の施設等を計画的に整備するなど、子育て世代に目を向けさせる施策を実施する。
- ③ 早急に実施が望ましい施策と将来的課題の視点にたった整理を行う。

### 戦略プランのめざす姿

子育て世代への支援策の充実のみだけでなく、近所や地域とのコミュニケーションがスムーズにとれ「地域とのつながり」「支えあい」「絆」を実感でき、安心していきいきと暮らせるまち。

つまり

子どもの笑顔を未来につなぐまち 当別

プランが考える  
3つの戦略

## 戦略1 子どもにやさしいまちづくり

### (1) 施設等の環境整備

- ① すべての子どもが安心して暮らせるための子ども発達支援センターの整備
- ② 子どもたちが楽しく遊べる公園整備
- ③ 子どもを安心して預けることができる場、西当別子どもプレイハウスを移設



### (2) 子育て応援プラン

- ① 乳幼児を持つ家庭への町指定ごみ袋の無償交付
- ② 予防接種（インフルエンザ）助成
- ③ 歯科医療の高度な専門機関と連携したむし歯ゼロ作戦
- ④ 子どもの医療費負担をサポートする医療費助成



### (3) お誕生日の絆プラン

- 子どもの誕生を町全体で祝福する
- (4) 地域が子どもを育む
  - ① 町民が一体となって子どもを支える連携体制を構築
  - ② 子どもを地域で育てる環境とその居場所づくり



### (5) 特色ある学び・教育

- ① 英会話指導助手の配置で小学校低学年から国際理解教育
- ② もっと英語を身近にする英語クラブの創設
- ③ 地域力をもっと学校に！地域との一層の連携



## 戦略2 住みやすい住環境づくり

### (6) 子育て世代定住促進策

- ① 親との暮らしで安心の子育て環境をつくる二世帯居住・近居住支援整備
- ② 子育て世代に住宅取得の機会を増やす空き家バンク・住み替え制度

## 戦略3 まちの魅力の発信

### (7) わかりやすい情報発信

- 情報発信ツールの積極的活用により「子育てにやさしいまち」をアピール
- (8) 資源を活かした魅力づくり
  - まちの魅力の創出により交流人口を増やす

## 戦略プラン が提案する 将来に向けたまちづくり

少子化対策は、個別の対処療法では根本的な解決にならないと言えます。真の「安心して子育てができるまち」を目指し、良好で永続的な地域コミュニティを創るには長い年月も必要です。

外から人を呼び込む前に、在住する町民自身が魅力と誇りを持てる「夢を持って暮らせるまち」の実現を目指さなければなりません。

将来に向けたまちづくりとして次の4つの視点を重要と考えています。

### ○ふるさと意識づくり

人間関係づくりのため、地域住民の地域活動への積極的参加

### ○特色ある教育の推進

一貫した教育体制の確立や、地域と一体となった教育熱心なまちづくり。

### ○北海道医療大学との連携

「大学」や、その学生とのつながりを深くする産学官連携。

### ○就労の場づくり

大都市に近い利便性を強調した企業誘致の促進。

# 安心して子育てができるまちへ

## インタビュー

こういう活動があったらいいな！を形にすることで、多くの人に関わることで、子育て・教育は変わる。



住んでみたい当別推進協議会  
幹事長 辻野 浩さん

当別は子育てのための人材や環境が実は恵まれている。その隠された潜在能力を活かすには、地域のマンパワーを一元的に活用する制度を確立することが望まれます。

私は「当別まちの学校」というものを考えています。出来るだけ多くの地域の人や子ども達の放課後の活動に

携われるよう支援ができるという構想です。地域の子育てや学習は学校や行政だけに任せていても限界があります。その反面、この町の規模だから個人レベルでも協力してできることも事実です。教育に熱心な親であれば、いろいろな形でサポートに回れる人も多いはず。こういうマンパワーを活かしてこそ地域の教育力が高まる循環が生まれるのではと期待しています。

平成24年度はこの考え方の実証を試みようとキッズアカデミーを実施しました。スウェーデンヒルズや太美地区の小学生を対象に、職業の疑似体験、天体観測や外国語に親しむ時間など、幅広い分野の講師

を招いた課外授業を企画して、子どもたちに様々な体験の場を提供しました。

住んでみたい当別推進協議会はこれまで移住促進という立場からまちづくりのお手伝いをしてきましたが、少子化対策も含めたこのような取り組みの必要性が急務と考え、昨年からは実施しています。

子育て世代の満足度を刺激することが出来れば、それはまちの大きな魅力となり、「子育てのために集まるまち」にも発展するのではないのでしょうか。

## まちの未来推進室担当者から

子育て世代、出生数の減少は行政的な施策だけでなく町民のすべてが意識し取り組む事が大切です。

あいさつであったり、地域の交流であったり、みなさん当たり前にしていることが、当別の良さ、やさしさのあるまちにつながり、住んでいたい場所になると少子化対策戦略プランは指摘しています。

現役世代が未来に不安を残さないためにも今、その取り組みは必要です。

▼担当 企画部まちの未来推進室 (☎ 23 - 3073)

<http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/mirai/>